

平成30年度学校評価報告書

平成31年3月1日

北海道札幌稲雲高等学校長

狩 野 康 弘

1 本年度の重点目標

- 1 自ら学ぶ意欲を育て、目的意識をもって継続的に学習する習慣を身につける。
- 2 自らを律する心と他者と交流する実践力を育て、望ましい人間関係を身につける。
- 3 社会の中での自己実現を考えさせ、進路目標の達成に努力する力を身につける。
- 4 自他の生命・自然を大切にすることを育て、健康・安全の習慣を身につける。
- 5 自ら考え行動する姿勢を育て、効率的に成果をあげる学習態度を身につける。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	- 学校課題を明確にし、教職員の協働体制のもと、保護者や地域からの期待に応えるための取組を推進した。進学指導体制については昨年度国公立大学に50名の合格者を出すなど、一定の評価を受けているが、学習指導を中心としてより改善する余地がある。 - 情報発信の充実やメール配信の有効活用により、地域や保護者への情報伝達や危機管理運営を比較的円滑に行うことができた。 - 勤務の効率化や平準化に努め、職員のワークライフバランスの確立等に向けた取組を行った。限られた時間でも質の高い教育活動をさらに推進する必要がある。	- 保護者アンケートの回収率について、昨年度81%に対して今年度は74%に減少した。「入学させてよかった」が79%、「情報提供が十分できている」が76%など、高い割合を維持している。 - 地域の高齢者宅への除雪ボランティアをはじめ、生徒の奉仕活動や体験活動は今後もぜひ継続していただきたい。 - 特別な教育的支援を必要とする生徒への対応や英語の外部検定、社会へ出るまでに「何のために学ぶのか」など学習のモチベーションを高める指導について、一層の取組を期待している。
改善方策	・「教育の質の向上」を図る研修の充実、生徒の体験活動を重視した取組を進める。	
学習指導	「授業を改善・工夫するための環境を設定できたか」が24%と大きく減少した。「学習習慣を確立できたか」(1年32%)、「家庭学習が自主的な学習へ変化しているか」(2年24%)、1・2年生の段階で学習習慣の定着と自主的に学習に取り組む姿勢の育成が大きな課題である。	「授業・学習指導を通して、生徒の能力を十分に引き出すことができている。」(1年54%)、(2年54%)、(3年56%)、学習意欲の喚起と学力向上のために、授業改善を一つのテーマとして取り組んでいるが今後も粘り強く継続した指導を望む。
改善方策	- 学習意欲の喚起と学力向上のために「思考力・判断力・表現力」を伸ばすための授業の研修と実践を進める。 - 生徒による授業評価、積極的な公開授業の実施等授業の工夫や改善への継続的な取り組みを図る。 「総合的な探究の時間」における取組や体験活動を中心とした指導を通じて学習意欲の喚起につなげる。	
生活指導	「職員の共通認識がなされ、学年・クラス間の傾斜なく実施されていたか」(33%)、「クラスや学年に対して、適切な支援や協力ができているか」(27%)ともに減少している。クラス間、教職員間の共通実践に努め、組織として指導体制の強化に努める。	「基本的生活習慣に関する指導が行われ、その成果が現れている。」(87%)、「健康指導や交通安全など、安全指導が適切に行われている」(85%)、その一方で自転車事故の危険性や、歩行マナーの問題も指摘されている。今後も指導を継続していただきたい。
改善方策	- 分掌の再編をはじめとした組織の見直しを行い、教職員間の協力体制を推進する。 - スタントマンによる交通安全指導やSNS等の指導を充実させる。	
進路指導	「進路通信を通して生徒への適切な情報提供をすることができたか」が39%と大きく減少したものの、「進路資料を活用し計画的な面談を通して生徒の適性に合った進路指導ができたか」(3年)は70%と高い割合だった。 「進路の方向性を探究し自己決定する力を育成できたか」(2年)が33%と低調であり、1・2年における進路意識の涵養が課題である。	- 国公立大学進学希望者クラスの取り組みも認知され、結果も良好と考える。 - 目的を持って進学させるためには、保護者と本人が十分に話し合ったうえで三者面談等を行い、適切な進路指導を行うことが大切であり継続を望む。 - 将来を見据えた、適切な進路指導が実践されている。
改善方策	- 模試等の分析を共通理解し、各教育活動に反映させるとともに、進路通信等を活用して周知を図る。 - 保護者の意識改革を図るとともに、家庭での学習習慣を定着させる指導の方策を検討する。 - 各学年における進路指導の方策を再検討し、自己決定力の育成に努める。	
保健安全指導	「教育相談活動の充実を図ると共に、担任、学年、分掌との連携を促進することができた」(79%) 「災害に備え、速やかに対応できる姿勢を身につけさせることができたか」が55%と改善傾向が見られた。	- 生徒の健康管理(視力の低下、口腔衛生など)についてこれまで以上に指導を継続していただきたい。 - 教育相談活動やスクールカウンセラーによるサポートが充実している。教職員のスキル向上への取組をさらにお願いしたい。
改善方策	- 望ましい人間関係を育成するために、専門家と教員による組織的な教育相談活動の充実とスキル向上への取り組みとして教員研修を推進する。 - 生徒が健康や安全についての自己管理能力を高められるよう学校全体での指導や支援体制のより一層の充実を図る。	